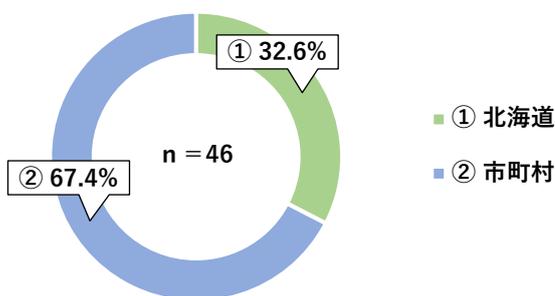


## B-⑥ スクールソーシャルワーカー

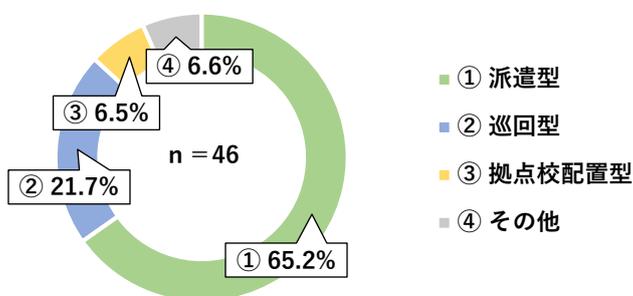
### 問1 回答者の配置先

\* 回答者の配置先（都道府県・市町村の別）は、「② 市町村」が67.4%、「① 北海道」が32.6%となっています。



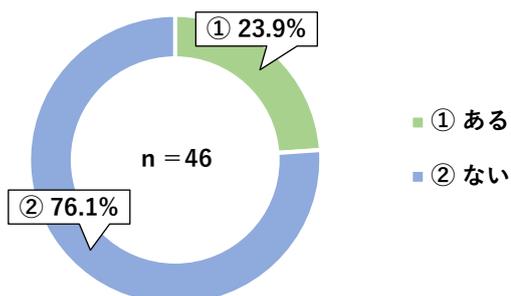
### 問2 回答者の配置形態

\* 回答者の配置形態は、「① 派遣型」が65.2%で最も多く、次いで「② 巡回型」が21.7%となっています。



### 問3(1) 対応したケースにおけるヤングケアラーの有無（令和2年度）

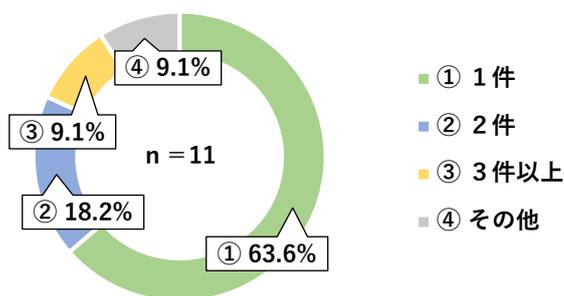
\* 対応したケースにおけるヤングケアラーの有無は、「② ない」が76.1%となっており、「① ある」の23.9%を大きく上回っています。



B-⑥ スクールソーシャルワーカー

問3(2) 対応したケースの件数

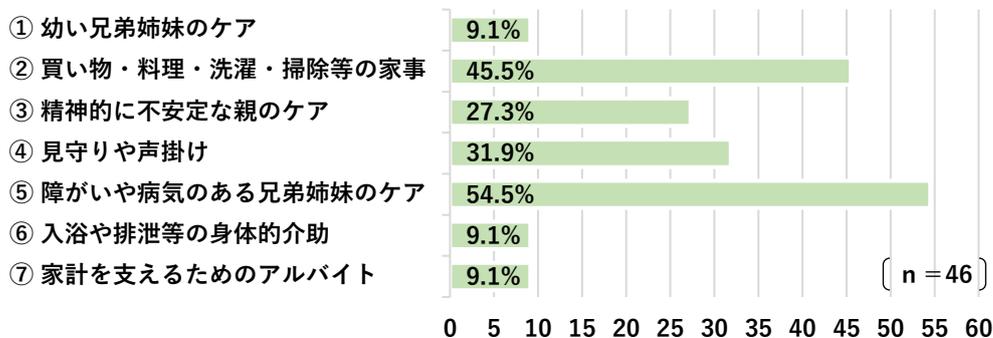
\* 対応したケースの件数は、「① 1件」が63.6%で最も多く、次いで「② 2件」が18.2%となっています。



問3(3) ヤングケアラーが行っているケアの内容

複数回答

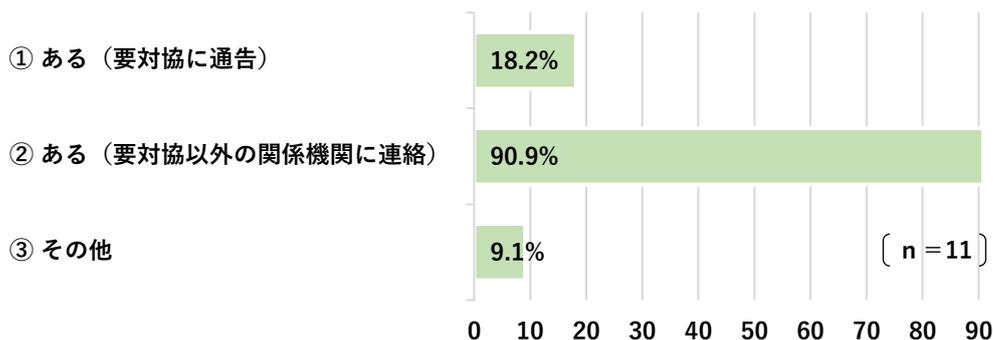
\* ケアの内容は、「⑤ 障がいや病気のある兄弟姉妹のケア」が54.5%で最も多く、次いで「② 買い物・料理・洗濯・掃除等の家事」が45.5%となっています。



問3(4) ヤングケアラーを学校以外の関係機関につないだ事例の有無

複数回答

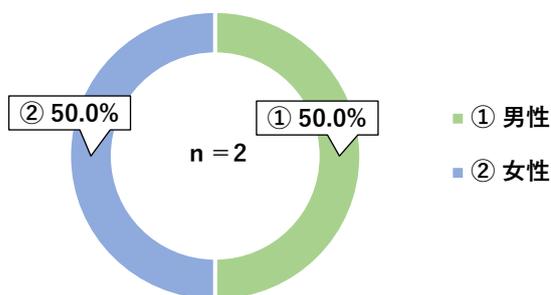
\* 事例の有無は、「② ある (要対協以外の関係機関に連絡)」が90.9%で最も多く、次いで「① ある (要対協に通告)」が18.2%となっています。



B-⑥ スクールソーシャルワーカー

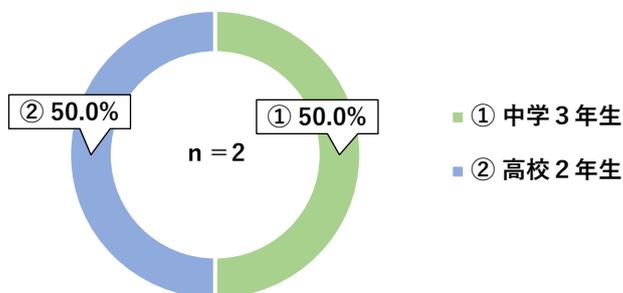
問3(5) 要対協へ通告したケースの性別

\* 要対協へ通告したケースの性別は、「① 男性」「② 女性」がそれぞれ50.0%となっています。



問3(6) 要対協へ通告したケースの学年

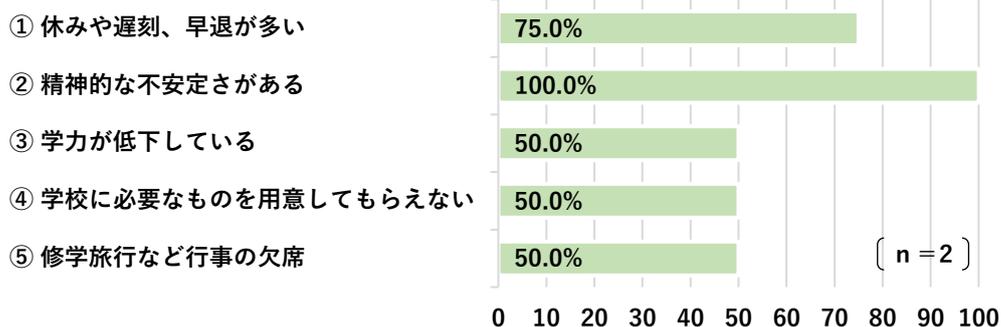
\* 要対協へ通告したケースの学年は、「① 中学3年生」「② 高校2年生」がそれぞれ50.0%となっています。



問3(7) 要対協へ通告したケースの学校生活の状況

複数回答

\* 学校生活の状況は、「② 精神的な不安定さがある」が100.0%で最も多く、次いで「① 休みや遅刻、早退が多い」が75.0%となっています。

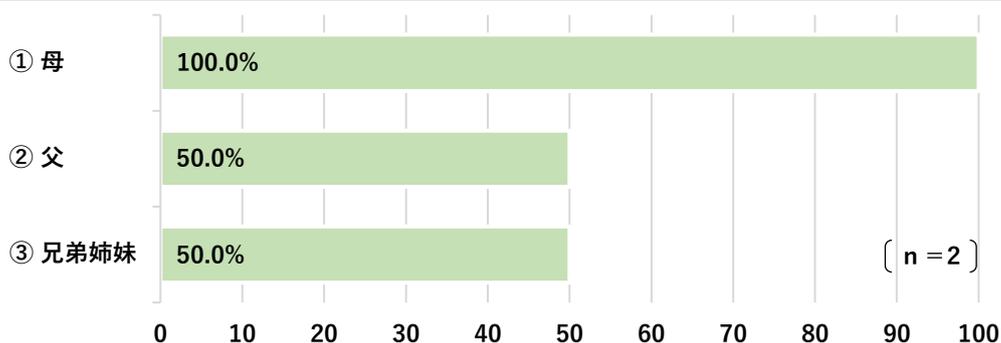


B-⑥ スクールソーシャルワーカー

問3(8) 要対協へ通告したケースの同居家族

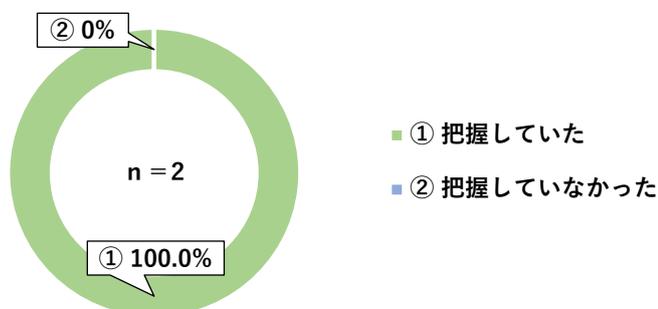
複数回答

\* 要対協へ通告したケースの同居家族は、「① 母」が100.0%で最も多く、次いで「② 父」「③ 兄弟姉妹」が50.0%となっています。



問3(9) 要対協へ通告したケースのケアに関する状況把握

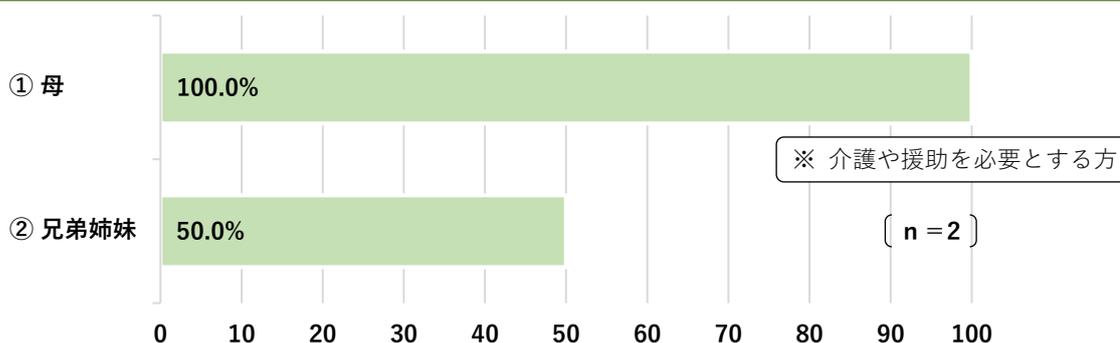
\* 要対協へ通告したケースのケアに関する状況把握は、「① 把握していた」が100.0%となっています。



問3(10) 要対協へ通告したケースの要ケア者（続柄）

複数回答

\* 要対協へ通告したケースの要ケア者<sup>\*</sup>は、「① 母」が100.0%で最も多く、次いで「② 兄弟姉妹」が50.0%となっています。

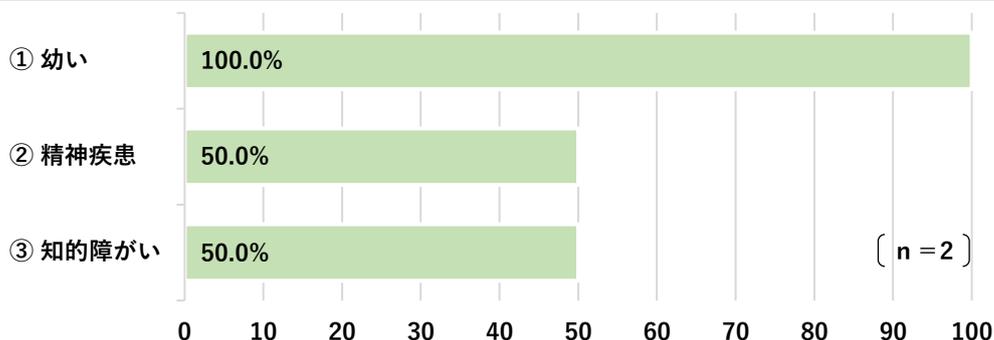


B-⑥ スクールソーシャルワーカー

問3(11) 要対協へ通告したケースの要ケア者がケアを要する理由

複数回答

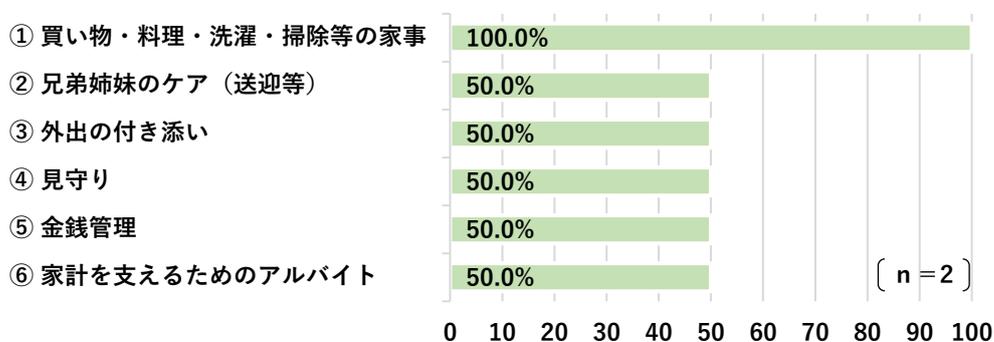
\* 要ケア者がケアを必要とする理由は、「① 若い」が100.0%で最も多く、次いで「② 精神疾患」「③ 知的障がい」が50.0%となっています。



問3(12) 要対協へ通告したケースが行っているケアの内容

複数回答

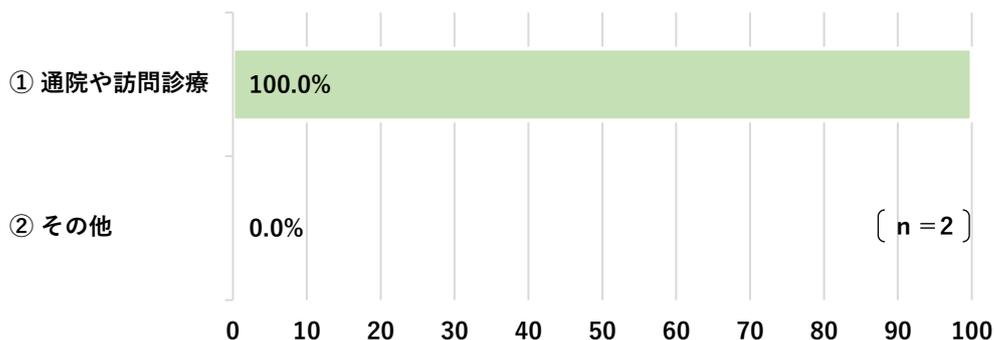
\* ケアの内容は、「① 買い物・料理・洗濯・掃除等の家事」が100.0%で最も多く、次いで「② 兄弟姉妹のケア(送迎等)」などが50.0%となっています。



問3(13) 要対協へ通告したケースの要ケア者が利用中のサービス

複数回答

\* 要ケア者が利用しているサービスは、「① 通院や訪問診療」が100.0%となっています。

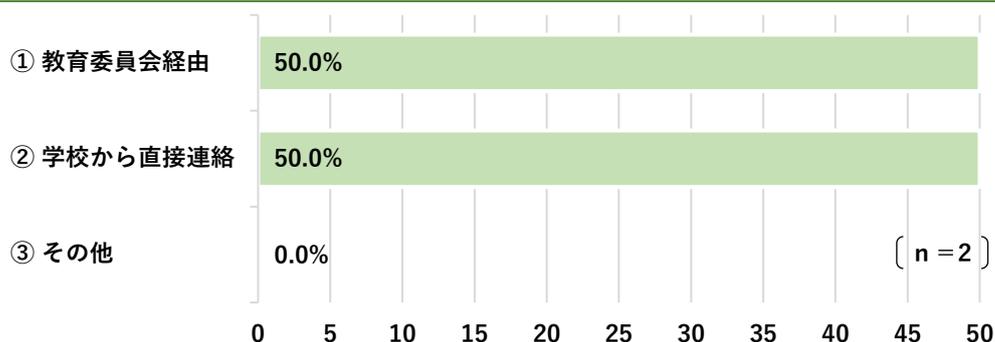


B-⑥ スクールソーシャルワーカー

問3(14) 要対協へ通告した際の経由機関

複数回答

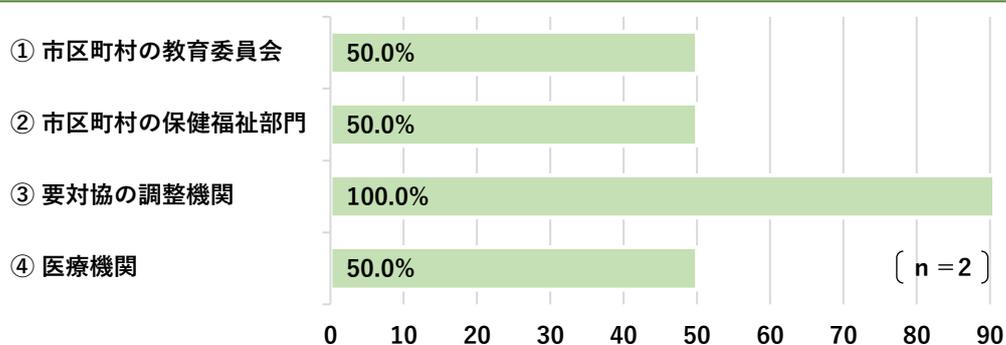
\* 要対協へ通告した際の経由機関は、「① 教育委員会」「② 学校から直接」がそれぞれ50.0%となっています。



問3(15) 要対協へ通告したケースの対応で連携した関係機関

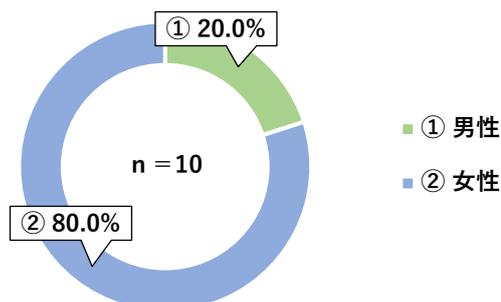
複数回答

\* 連携した関係機関は、「③ 要対協の調整機関」が100.0%で最も多く、次いで「① 市区町村の教育委員会」などが50.0%となっています。



問3(16) 要対協以外で支援したケースの性別

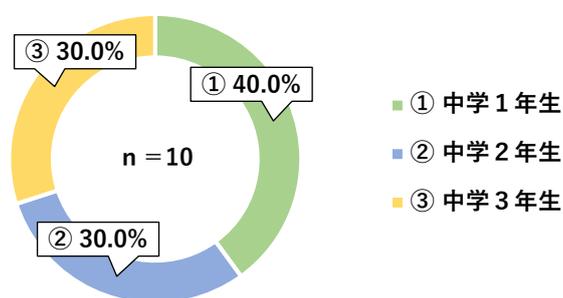
\* 要対協以外で支援したケースの性別は、「② 女性」が80.0%となっており、「① 男性」の20.0%を大きく上回っています。



B-⑥ スクールソーシャルワーカー

問3(17) 要対協以外で支援したケースの学年

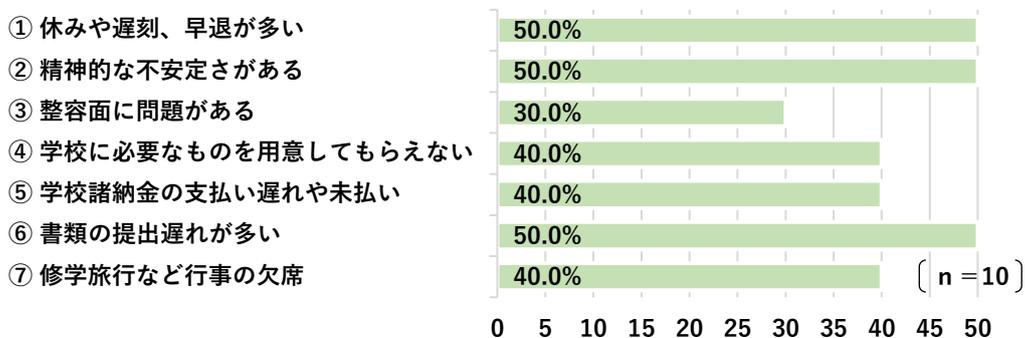
\* 要対協以外で支援したケースの学年は、「① 中学1年生」が40.0%で最も多く、次いで「② 中学2年生」「③ 中学3年生」が30.0%となっています。



問3(18) 要対協以外で支援したケースの学校生活の状況

複数回答

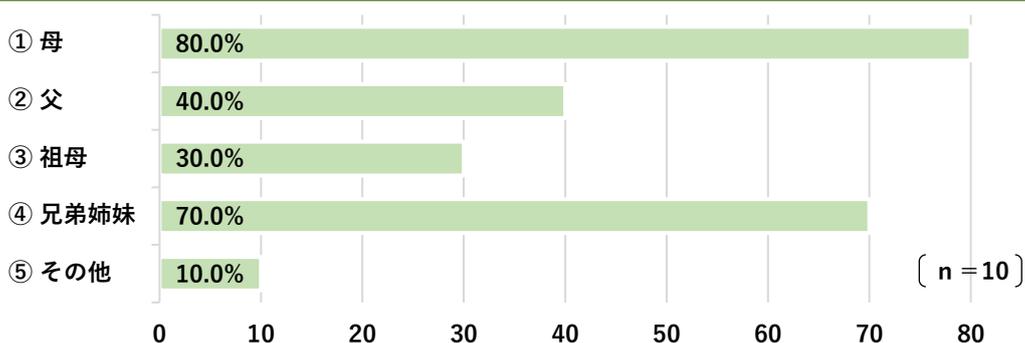
\* 学校生活の状況は、「① 休みや遅刻、早退が多い」「② 精神的な不安定さがある」「⑥ 書類の提出遅れが多い」がそれぞれ50.0%となっています。



問3(19) 要対協以外で支援したケースの同居家族

複数回答

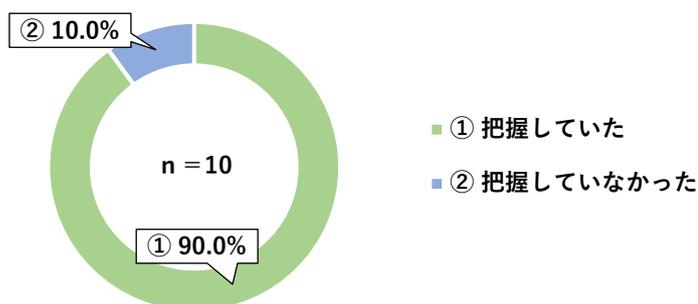
\* 要対協以外で支援したケースの同居家族は、「① 母」が80.0%で最も多く、次いで「④ 兄弟姉妹」が70.0%となっています。



B-⑥ スクールソーシャルワーカー

**問3(20) 要対協以外で支援したケースのケアに関する状況把握**

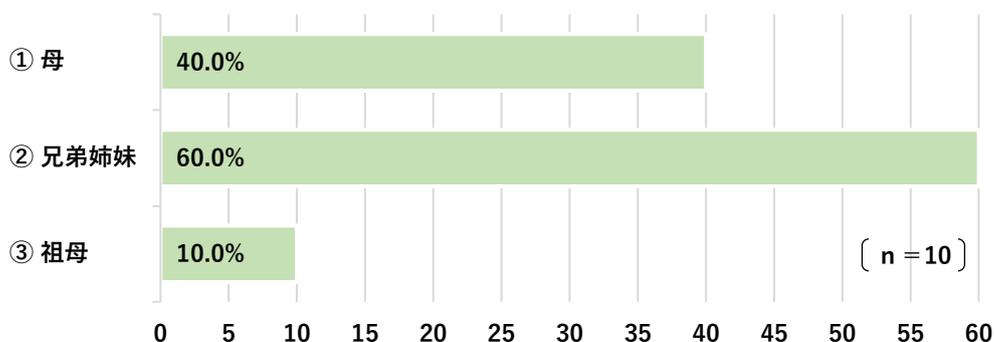
\* 要対協以外で支援したケースのケアに関する状況把握は、「① 把握していた」が90.0%、「② 把握していなかった」が10.0%となっています。



**問3(21) 要対協以外で支援したケースの要ケア者（続柄）**

複数回答

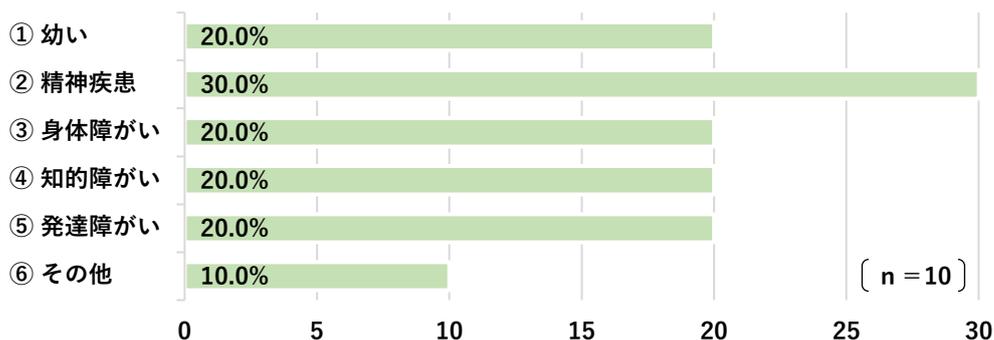
\* 要対協以外で支援したケースの要ケア者は、「② 兄弟姉妹」が60.0%で最も多く、次いで「① 母」が40.0%となっています。



**問3(22) 要対協以外で支援したケースの要ケア者がケアを要する理由**

複数回答

\* 要ケア者がケアを必要とする理由は、「② 精神疾患」が30.0%で最も多く、次いで「① 若い」「③ 身体障がい」などが20.0%となっています。

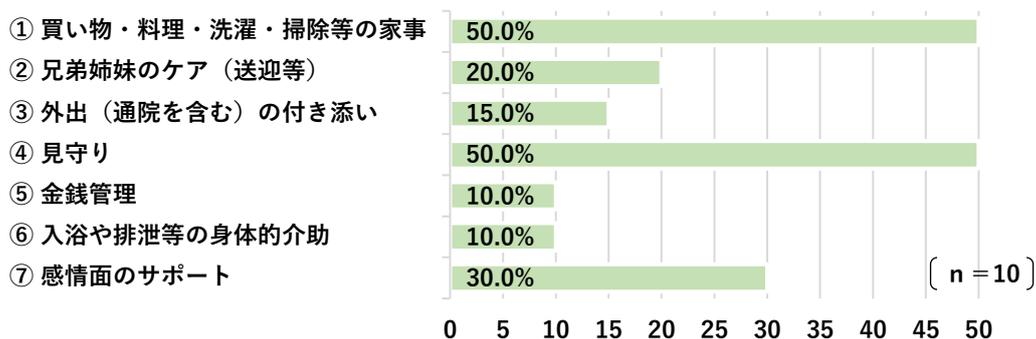


B-⑥ スクールソーシャルワーカー

問3(23) 要対協以外で支援したケースが行っているケアの内容

複数回答

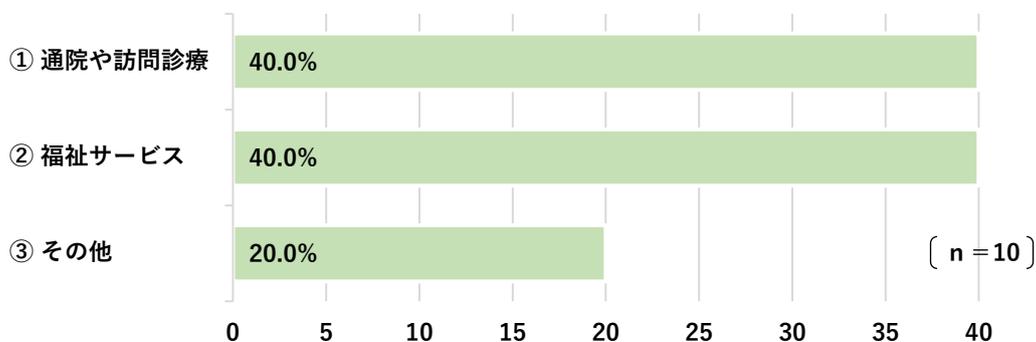
\* ケアの内容は、「① 買い物・料理・洗濯・掃除等の家事」「④ 見守り」が50.0%で最も多く、次いで「⑦ 感情面のサポート」が30.0%となっています。



問3(24) 要対協以外で支援したケースが利用中のサービス

複数回答

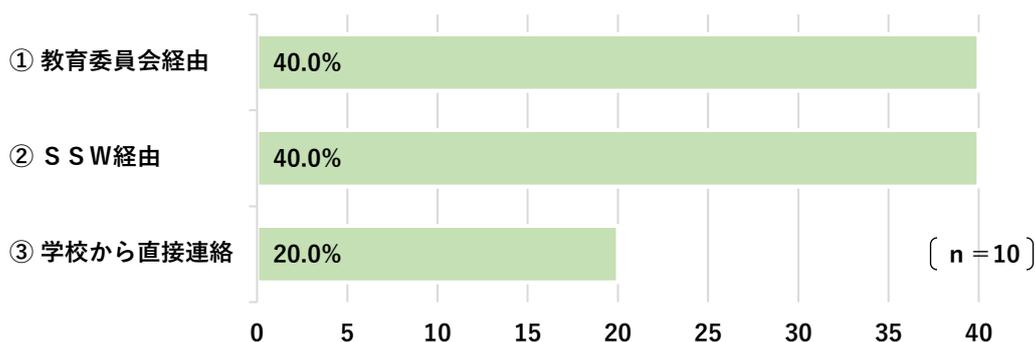
\* 要ケア者が利用しているサービスは、「① 通院や訪問診療」「② 福祉サービス」が40.0%で最も多く、次いで「③ その他」が20.0%となっています。



問3(25) 要対協以外の関係機関へつないだ際の経由機関

複数回答

\* 関係機関へつないだ際の経由機関は、「① 教育委員会」「② S S W」が40.0%で最も多く、次いで「③ 学校から直接」が20.0%となっています。

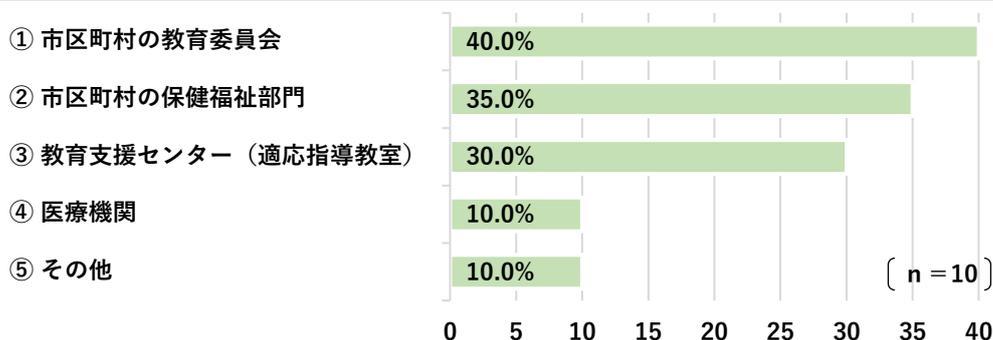


B-⑥ スクールソーシャルワーカー

問3(26) 要対協以外で支援したケースの対応で連携した関係機関

複数回答

\* 連携した関係機関は、「① 市区町村の教育委員会」が40.0%で最も多く、次いで「② 市区町村の保健福祉部門」が35.0%となっています。



問4 ヤングケアラー支援に必要な取組

複数回答

\* 支援に必要な取組は、「② ヤングケアラーを知る(教職員)」が95.7%で最も多く、次いで「⑤ 教職員に相談しやすい関係の確保」が84.8%となっています。

